

令和5年度 社会福祉法人慈照会事業報告

通常規模型通所介護事業
短期入所生活介護事業
訪問介護事業
居宅介護支援事業
介護老人福祉施設事業
ケアハウス事業

令和5年度社会福祉法人慈照会事業報告

1. 総括

わが国経済は、経済活動の正常化によるインバウンドを含む個人消費の持ち直しも見られるが、原燃料価格の高騰や円安の進行、ロシア、ウクライナ、イスラエル・パレスチナの情勢長期化等により、景気の先行きは不透明な状況が続いた。介護業界は、公定価格の下、急激な物価高騰によるコスト管理は非常に難しく、賃金上昇への対応も迫られた。

新型コロナウイルスが5類になり、社会全体で緩和へと進んだが、高齢者施設では、対策を継続しなければならぬ部分もあり、難しい状況があった。当法人では、2月～3月にかけて、特養で新型コロナウイルスのクラスターが発生し、対応に苦慮したが、過去の経験値もあり、前回のクラスターより大きな支障なく乗り切った。

各事業では、4月末に職員体制と利用状況等を踏まえて認知症対応型通所介護事業所を廃止した。ケアハウスの職員体制を一新することとなり、一時的に他事業所職員の支援を得て乗り切った。

次世代の介護人材の確保では、リクナビを活用し、2024 新卒オンライン及び現地職場説明会、2025 新卒インターンシップを実施した。中途採用では、リクナビNEXTによって次世代の事務職採用にも取り組んだ。介護の合同就職説明会 in びわこ学院大学では、若手職員も参加し、その後の施設見学・採用に結び付いた。多くの職員に関わってもらいながら結果が出て来ている。人材確保できる法人が事業を優位に展開できることは間違いなく、難しい課題であるが覚悟を持って継続して取り組む。

介護ロボット等のテクノロジー活用による生産性の向上は、採用活動においても必須の取り組みとなっており、さまざま視点で情報収集を継続した。

公益的な取り組みでは、子羊を含む3頭を飼育し地域の憩いの場の提供はできた。採用活動においても強く印象付ける話題になっている。サロン支援は、感染症類型見直しはあったが、実績は少ない結果となった。各種団体活動としては、三方よし初任者研修への講師派遣、高齢/障害/保育とのネットワーク、各種団体の役員活動に参加した。施設見学、実習生の受入れにも積極的に対応した。びわこリハビリテーション大学とフレイル予防の共同事業を実施し、施設においても多くの有益な情報を得ることができた。能登半島被災地支援として滋賀県 DWAT に職員を2クール派遣したことは、大きな意味があった。

次年度は、滋賀県において、介護ロボットや ICT 等のテクノロジーの活用、業務負担軽減と質の高いケアの実現を支援する介護現場革新サポート事業、長期にわたり大変厳しい時期が続いたコロナ禍を経験し、感染対策地域支援ネットワーク(Shiga HAI-net)の構築、感染対策を担う中核的人材育成する事業が立ち上がる。これらの流れに乗って対応を進め、介護現場の革新、感染症に強い施設、事業所を目指す。ホームページもリニューアルし、今後は情報の発信力を高めながら、私たちを取り巻く環境の変化と、資源及び物価高騰の深刻化等により益々厳しくなっている経済情勢に対応していきたい。

2. 事業別報告

【通常規模型通所介護事業】（定員：30名）

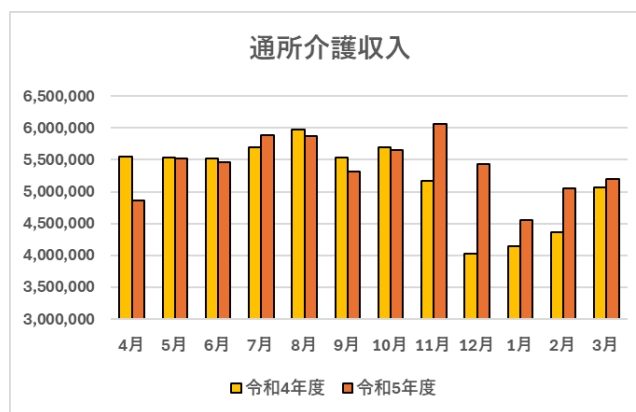
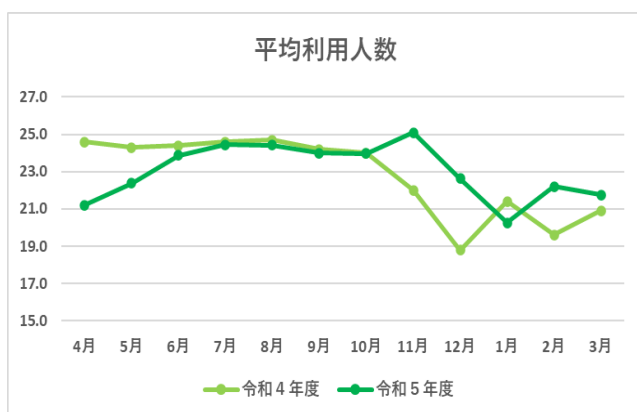
コロナ感染の影響は少なく安定し、一日平均利用者数は23.0名（昨年比100.8%）となった。

重点目標: 職員の介護技術の向上、利用者の安心できる環境づくりにより、利用者増を目指す

- ・定期的な勉強会の実施、外部研修の参加により、職員の質の向上に努める
- ・快適に過ごしてもらえるような場所、配置の変更
- ・営業時間内のタイムスケジュール、趣味活動、アクティビティの見直しを行う

結果: 職員体制の変更もあり、勉強会の実施、研修参加は不十分であった。コロナ禍からの、場所、配置の変更は、感染対策の継続もあり進まなかった。

	営業日数	利用実人員	新規利用者	一日平均利用人数		
				介護予防	通常規模	合計
4月	25	65	1	1.7	19.5	21.2
5月	27	70	3	1.9	20.5	22.4
6月	26	72	2	2.4	21.5	23.9
7月	26	78	7	2.1	22.3	24.4
8月	26	75	0	2.0	22.4	24.4
9月	26	72	1	1.8	22.2	24.0
10月	26	69	1	1.8	22.2	24.0
11月	26	70	1	2.0	23.1	25.1
12月	26	67	0	1.8	20.8	22.6
1月	24	65	0	1.3	19.0	20.3
2月	25	65	1	1.6	20.6	22.2
3月	26	64	1	1.4	20.4	21.8
	309	69.3	18	1.8	21.2	23.0



【短期入所生活介護事業】（定員：16名）

新規利用を積極的に獲得し、コロナ感染の影響も少なく安定もしていたが、東近江市の短期入所利用の制限の影響が大きく、一日平均利用者数は、14.9名（昨年比99.3%）となった。

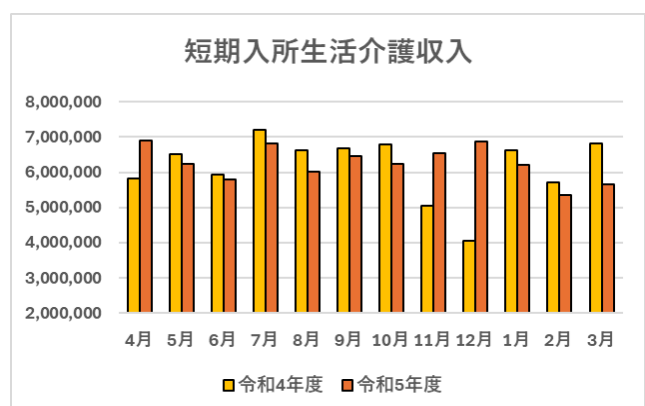
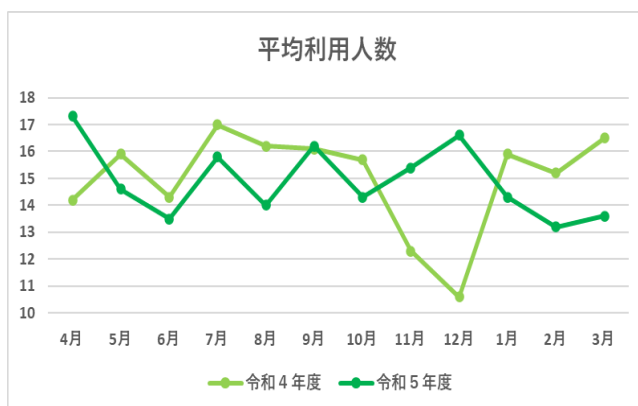
重点目標：「働きやすい」「魅力がある」「やりがいがある」職場づくりを目指す

ワークエンゲージメントを高め、利用者と介護職がより良い関係を築ける取組みを実施します。

1. コミュニケーションを活発に行い、情報共有を促進する
2. 介護職の心理的安全性を高め、精神的負担を軽減する
3. やりがいを感じることで利用者との信頼・安心感を高める

結果：1オン1ミーティングを実施したが、数名の面談に終わった。ただ、面談者とは仕事の悩み等相互理解が深まった。送迎体制の変更や、他事業所の応援要請により、職員の負担感が増し、業務の組み立てが上手くいかなかった。信頼、安心感を高めるには至らなかった。

月	新規利用者	利用実人員	一日平均利用人数	ベッド稼働率 (%)
4月	5	58	17.3	108.1
5月	6	56	14.6	91.3
6月	7	55	13.5	84.4
7月	7	59	15.8	98.8
8月	7	61	14.0	87.5
9月	5	58	16.2	101.3
10月	6	59	14.3	89.4
11月	5	60	15.4	96.3
12月	1	56	16.6	103.8
1月	4	55	14.3	89.4
2月	4	48	13.2	82.5
3月	8	54	13.6	85.0
	65	679	14.9	93.1



【訪問介護事業】

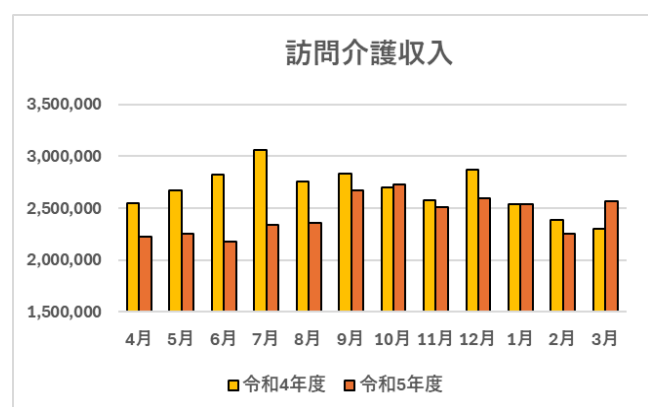
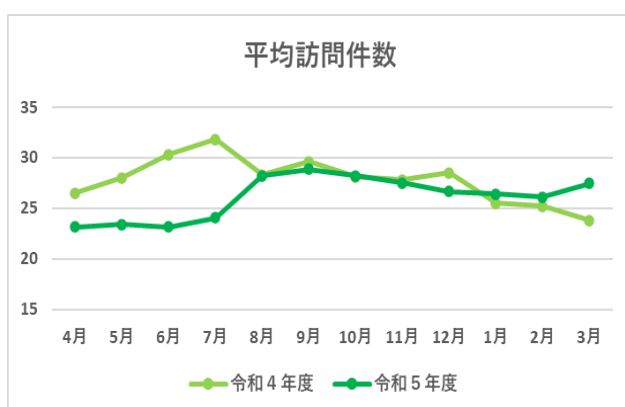
一日平均訪問件数は、26.1件（昨年比93.8%）となった。

重点目標： ご利用者の人生の困難な時期に関わる意識を持ったサービスの提供の実施

常にきめ細かく対応し、その人らしい普通の生活を安心安全に過ごしてもらう。特に困難事例は情報をきちんと共有し対応したい。介護者のできるできないに配慮し、ご本人のできることは頑張ってもらい、在宅生活に幸せを感じてもらえるよう支援する。

結 果：支援者と連携を密に、迷惑をかけないように対応出来た。困難ケースも多く、大変な日も多かったが、訪問計画をきちんと立て、常に安心安全に生活を送れるように支援してきた。コロナ感染への注意は継続し支援は大変であったが、発生時はその都度訪問回数の増加等に対応した。

月	介護予防		訪問介護事業		介護予防＋訪問介護		一日平均 訪問件数
	利用実人員	延訪問件数	利用実人員	延訪問件数	利用実人員	延訪問件数	
4月	8	41	43	654	51	695	23.2
5月	9	40	41	686	50	726	23.4
6月	8	46	42	649	50	695	23.2
7月	7	40	45	705	52	745	24.0
8月	7	39	47	835	54	874	28.2
9月	7	37	46	828	53	865	28.8
10月	7	38	44	836	51	874	28.2
11月	7	38	44	787	51	825	27.5
12月	8	39	42	787	50	826	26.6
1月	8	37	43	781	51	818	26.4
2月	9	46	39	685	48	731	26.1
3月	10	48	41	803	51	851	27.5
	95	489	517	9,036	612	9,525	26.1



【居宅介護支援事業】

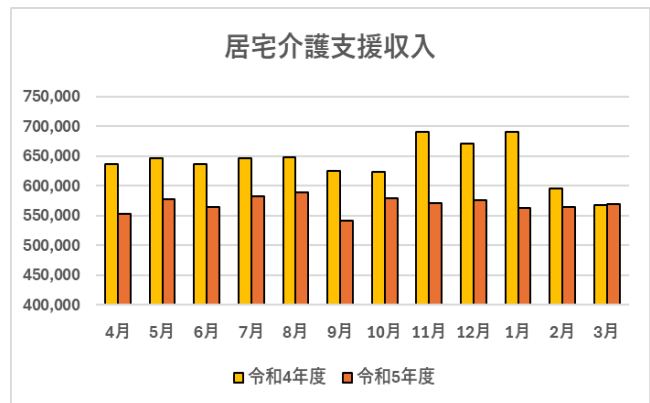
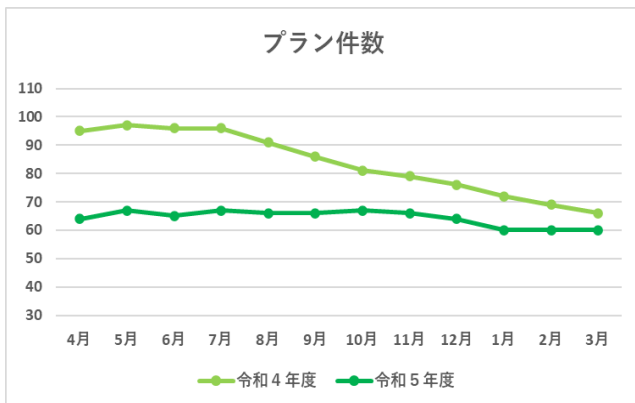
ケアマネの確保が進まず、年間を通じて1名の職員体制となり、平均プラン件数は64.3名（昨年比76.8%）となった。

重点目標：適切なケアマネジメント手法を中心とした計画作成に努める

「適切なケアマネジメント手法」の考えに沿ったプランの見直しを行い、ケアマネジメントの質を上げていく。

結 果：BCP 名寄せ名簿に合わせてプランの更新ごとに「手法」の考え方を取り入れたプランに変更しており、半分程度の利用者につき見直しができる。来期はさらに差別化できるようにもっていきたい。

月	新規利用	事業対象	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
4月	0	1	7	5	24	9	7	7	4	64
5月	1	1	8	5	25	10	6	7	5	67
6月	0	1	8	5	24	10	7	6	4	65
7月	2	1	8	5	23	12	7	7	4	67
8月	1	1	5	6	25	13	7	6	3	66
9月	0	1	5	6	22	15	9	5	3	66
10月	1	1	5	6	23	15	9	5	3	67
11月	0	1	5	5	22	17	8	5	3	66
12月	0	1	4	5	21	16	9	5	3	64
1月	0	1	4	4	18	15	9	5	4	60
2月	1	1	4	3	17	18	8	5	4	60
3月	0	1	4	3	18	18	8	4	4	60
合計	6	12	67	58	262	168	94	67	44	772
月平均	0.5	1.0	5.6	4.8	21.8	14.0	7.8	5.6	3.7	64.3



【介護老人福祉施設事業】（定員：54名）

年度末にクラスターの発生があったが年間を通じて安定し、平均在居者数は51.0名（昨年比103.2%）となった。

重点目標：感染症対応にも考慮でき、安全と安心が確約された看取り介護体制の整備と実施

看取り介護に必要な知識の備蓄及び多職種間の連携を強化し、環境や入居者、ご家族の様々な看取りニーズに対し、専門職としての「安全」を主に医療職、「安心」を介護職が中心に担っていく

結果：上半期に看取り介護内部研修資料は完成し、内部研修実施を予定していたが、職員体制により一時中断。3月に内部研修実施を予定したが、新型コロナの集団感染により再び中止。結果的に看取り介護の運用は今期においても未だ実施に至らず。研修資料作成及び看取り介護チームの編成は既に完了していることから来期においてはスムーズな進捗が可能になる。

令和6年3月31日現在

入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
入居	0	1	1	1	0	0	2	0	0	1	0	0	6
退居	1	0	1	1	0	1	1	0	0	1	0	1	7
在籍者数	54	54	54	54	54	53	54	54	55	54	54	53	53.9
在居人数	50.8	50.3	50.3	52.3	50.9	49.7	50.4	52.1	51.4	50.8	52.3	50.1	51.0

入居者年齢状況

	男性	女性	全体
最高年齢	96	99	99
最低年齢	77	69	69
平均年齢	84.4	88.3	87.9

年齢	男性	女性	計	構成比 (%)
65～69歳	0	1	1	1.9
70～74歳	0	0	0	0.0
75～79歳	2	2	4	7.5
80～84歳	1	11	12	22.6
85～89歳	1	12	13	24.5
90～94歳	0	16	16	30.2
95～99歳	1	6	7	13.2
100歳～	0	0	0	0.0
計	5	48	53	100.0

入居者在居期間

	男性	女性	平均
平均在居期間	48.4ヵ月	55.9ヵ月	55.1ヵ月

在居期間	男性	女性	計	構成比 (%)
1年未満	1	4	5	9.4
1年以上2年未満	1	9	10	18.9
2年以上4年未満	0	11	11	20.8
4年以上6年未満	2	11	13	24.5
6年以上8年未満	0	7	7	13.2
8年以上10年未満	1	1	2	3.8
10年以上	0	5	5	9.4
合計	5	48	53	100.0

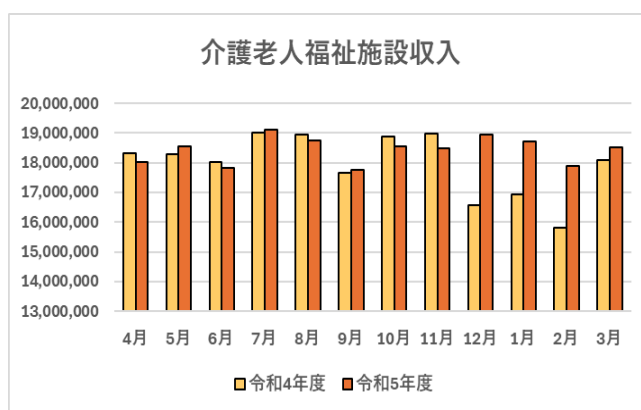
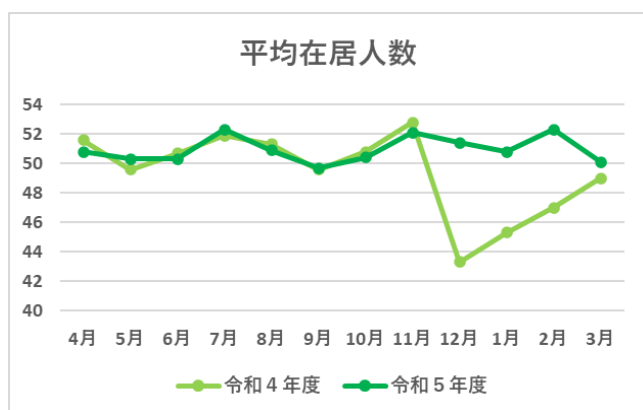
要介護度別入居者状況

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
入居者数	3	3	13	20	14	53
構成比 (%)	5.7	5.7	24.5	37.7	26.4	100.0

平均要介護度 3.94

待機者数 ※介護保険認定有効期間内の方

要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数	1	5	36	38	14	94
構成比 (%)	1.1	5.3	38.3	40.4	14.9	100.0



【ケアハウス事業】（定員：15名）

職員体制が一新し、不安定な1年となったが、新規入居者7名、退居者4名、年度末には満床となった。

重点目標： 待機者確保と満床維持

早期に満床を確保する為、情報発信と営業活動を重点的に行う。コロナ禍で失った入居者の生活の潤いを取り戻す為、行事や訪問販売などを再開し生活満足度を向上させたい。重度化してくる入居者のADLができる限り維持出来るように、個々の支援を見直し生活を支えていきたい。

結 果：4月当初は12名の入居者が、年度末に満床を確保できた。空きができた時にタイミングよく入所相談があり、入居につながったが、待機者確保までは至っていない。入居者の生活において、昼食の選択食、カラオケ・体操機器の導入、おやつ作り、介護・フレイル予防への取り組みに参加することで入居者の活動が増えた。新規入居者や以前から入居されている方の基本情報やサービス計画が中途半端であり、個々の支援を見直し、取り組むことができなかった。

令和6年3月31日現在

入退居状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
入居	0	1	0	3	0	1	0	0	1	1	0	0	7
退居	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	4
入居者数	12	13	12	15	14	14	14	14	15	15	15	15	—

入居者年齢状況

年齢	男性	女性	計	構成比 (%)
65歳～69歳	0	0	0	0.0
70歳～74歳	0	1	1	6.7
75歳～79歳	2	0	2	13.3
80歳～84歳	1	3	4	26.7
85歳～89歳	1	3	4	26.7
90歳～94歳	0	2	2	13.3
95歳～99歳	1	1	2	13.3
100歳～	0	0	0	0.0
合計	5	10	15	100.0

最高年齢 男性 97歳 女性 97歳
 最低年齢 男性 76歳 女性 74歳
 平均年齢 男性 83.6歳 女性 86.2歳 全体 85.3歳

平均入居年数

男性	3年1か月	女性	3年8か月	全体	3年6か月
----	-------	----	-------	----	-------

入居者要介護度

介護度	自立	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	合計
人数	1	1	2	4	6	0	1	14
構成比 (%)	6.7	6.7	13.3	26.7	40.0	0.0	6.7	100.0

3. その他事業等

【配食サービス】

営業日数235日、食数658、1日平均2.8食であった。職員体制の変更により12月30日廃止。

【介護人材確保】

リクナビを活用し、2024 新卒オンライン職場説明会、2025 新卒インターンシップを実施した。新卒採用はびわこ学院大学での説明会に参加したこともあり1名確保できた。今後も次世代の確保は時間と資金を投入し、引き続き多くの職員に関わってもらいながら進めたい。

【消防・防災】

夜間想定図上訓練を年度末に3回は実施したが、次年度は年間を通じた、計画的な実施に努める。

【衛生委員会】

新型コロナ禍以降、産業医と施設の事情もあり開催できていない。

【人事考課制度】

6月に令和4年度下半期評価、総合評価を実施し、評価に応じた賞与、昇給を実施した。12月に令和5年度上半期の評価を実施し、評価に応じた賞与を支給した。

【職員研修等】

各種団体等の研修に延べ79名が参加した。オンラインでの開催も多かった。滋老協・福祉のクラブトプロジェクトへの参加は貴重な機会となった。各事業所単位の勉強会、研修会が中心となった。

※施設内全体研修会

実施日	テーマ	講師等	参加者数
6月19日～30日	食事ケア時の感染対策	動画	69名

【実習生受け入れ】

実習生の受け入れが増えていることは良い傾向であり、今後も貴重な機会として積極的に受け入れする。

実習期間	学校・機関名	実習名	人数
6月5日～8月3日	綾羽高等学校	介護福祉士介護現場実習	1名
8月17日	東近江市中学生議会	視察研修	6名
9月19日～9月30日	NPO三方よし研究会	東近江圏域介護職員初任者研修実習	6名
11月8日～11月10日	聖徳中学校	職場体験	2名
12月10日	滋賀県介護・福祉人材センター	福祉の仕事職場体験ツアー	20名
2月10日、17日	街かどケア滋賀ネット	外国人介護職員初任者研修実習	3名
2月6日～3月8日	びわこ学院大学短期大学部	介護実習Ⅱ	2名

【ボランティア受け入れ】

日付	団体名	内容	人数
7月22日	建部日赤	除草作業	20名
7月22日	建部民生委員	葉狩り	8名
12月9日	建部日赤	窓拭き	22名

【地域の公益的な取り組み】

社会福祉法人として重要なテーマであり、年間を通じて積極的に取り組んだ。能登半島被災地支援として滋賀県 DWAT に2クール派遣したことは、法人としても大きな意味があった。

日付	内容	参加人数
4月18日	東近江市福祉法人ネットワーク会議・企画会議	1名
4月19日	第81回たてべ福祉を語る場	1名
4月27日	羊の飼育とふれあい広場の提供スタート	-
6月21日	第82回たてべ福祉を語る場	1名
9月27日	第83回たてべ福祉を語る場	1名
10月13日	羊の飼育とふれあい広場の提供終了	-
11月17日	竹鼻サロン支援（軽い体操、クイズ）	2名
12月20日	第84回たてべ福祉を語る場	2名
1月17日	第85回たてべ福祉を語る場	3名
2月7日	第7回 東近江市福祉法人ネットワーク会議	2名
2月9日～12日	滋賀県DWAT派遣①	1名
2月28日～3月4日	滋賀県DWAT派遣①	1名
3月13日	令和5年度 建部地区サロン交流会	1名
3月27日	第86回 たてべの福祉を語る場	1名
フレイル予防プロジェクト(びわこリハビリテーション大学協働)		
5月29日	自律神経および体組成測定	3名
6月26日	カラオケによるリラックス効果確認	2名
7月24日	自律神経および体組成測定	1名
8月28日	お好み焼きによるリラックス効果確認	2名
9月25日	自律神経および体組成測定	3名
10月23日	作陶によるリラックス効果確認	2名
11月27日	呼吸法によるリラックス効果確認	3名
12月25日	どじょうすくいによるリラックス効果確認	2名
1月22日	民具回想によるリラックス効果確認	2名
2月26日	大正琴によるリラックス効果および体組成測定	2名

【職員講師派遣及び事例発表等】

研修会への講師派遣等は、職員のレベルアップに確実に結び付いており、対外的な法人評価を高めるものとなっている。今後も積極的に取り組みたい。

日付	内容	派遣人数
6月14日	草津高穂地域包括支援センター主催研修①	1名
6月28日	介護給付適正化担当者研修会	1名
7月2日	介護職員初任者研修(人権と尊厳を支える介護・自立に向けた支援)	1名
7月5日	介護支援専門員法定研修 専門Ⅰ過程 ABコース	1名
7月13日	介護支援専門員法定研修 専門Ⅰ過程 Cコース	1名
7月16日	介護職員初任者研修(介護保険)	1名
7月20日	介護職員初任者研修(生活と家事)	1名
7月26日	介護職員初任者研修(整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護)	1名
8月3日	草津高穂地域包括支援センター主催研修②	1名
8月21日	介護支援専門員スキルアップ研修会①	1名
9月13日	草津玉川地域包括支援センター主催研修	1名
10月7日	介護支援専門員法定研修 専門Ⅱ過程 Aコース	1名
10月7日	介護職員初任者研修(介護課程の基礎的理解・総合生活支援技術演習①)	1名
10月8日	介護職員初任者研修(総合生活支援技術演習②③④)	1名
10月11日	介護支援専門員法定研修 専門Ⅱ過程 Dコース	1名
10月24日	介護支援専門員実務研修 実習受入れ説明会	1名
11月6日	介護支援専門員法定研修 専門Ⅱ過程 Eコース 演習ファシリテーター	1名
11月10日	介護支援専門員スキルアップ研修会②	1名
11月11日	外国人介護職員初任者研修(介護保険)	1名
11月20日	介護支援専門員法定研修 専門Ⅱ過程 Fコース	1名
11月22日	介護支援専門員実務研修「ケアマネジメントプロ」(講義録画)	1名
12月5日	主任介護支援専門員更新研修(家族支援)Bコース	1名
1月10日	介護支援専門員実務研修「アセスメント」平日コース(演習ファシリ)	1名
1月13日	介護支援専門員実務研修「アセスメント」休日コース	1名
1月15日	滋賀県主任介護支援専門員指導者養成研修(1日目)	1名
1月20日	介護支援専門員実務研修「計画/会議」休日コース(演習ファシリ)	1名
1月21日	介護支援専門員実務研修「会議/モニタリング」休日コース(演習ファシリ)	1名
2月14日	滋賀県主任介護支援専門員指導者養成研修(2日目)	1名
3月11日	滋賀県主任介護支援専門員指導者養成研修(3日目)	1名

【各種団体活動等】

施設長が滋賀県老人福祉施設協議会副会長、滋賀県介護サービス事業者協議会連合会役員、東近江介護サービス事業者協議会会長として、居宅介護支援事業所所長が、滋賀県介護支援専門員役員等として、積極的に活動し、県内、各地域の介護施設・事業所のサービスの質の向上に貢献した。

3. 年間行事等

4 月	19日第1回経営会議 30日認知症対応型通所介護廃止	10 月	13日羊の飼育終了 18日第7回経営会議 入居者・職員インフルエンザ予防接種
5 月	17日第2回経営会議 19日消防設備点検	11 月	15日第8回経営会議
6 月	7日R4年度下半期・総合評価者会議 9日監事監査 9日第1回理事会 21日第3回経営会議 26日第2回理事会 26日第1回評議員会	12 月	5日R4年度上半期評価者会議 20日第9回経営会議
7 月	4日万葉の里職員施設見学 19日第4回経営会議	1 月	1日年賀式 17日第10回経営会議 31日第3回理事会
8 月	16日第5回経営会議	2 月	21日第11回経営会議
9 月	5日介護の合同就職説明会 (びわこ学院大学) 7日入居者健康診断 20日第6回経営会議 9月中夜勤者健康診断	3 月	19日夜間指定図上訓練① 21日夜間指定図上訓練② 22日夜間指定図上訓練③ 14日職員定期健康診断 21日第12回経営会議 28日第4回理事会